昭和25年富丘小学校開校の当時の思い出　安原英雄

『富丘小学校開校30周年記念誌』からの抜粋・編集

開校当時、私は６年生で富丘小学校に転入しましたが、川沿から来た人、浜佐呂間から来た人たちの中で、まず名前を覚えることで大変でした。

雨の日は屋体がないので教室や廊下で走り回って遊び、外のグランドはカシワナラの切り株だらけでした。それでも適当な切り株をベースにして、ゴムまりで野球のまねごとなどをして遊びました。

先生方も次々と着任していただき、授業ができるようになりました。父兄の方々が木の根を抜き取り、２頭曳きプラウで耕して整地して、狭いながらもグランドができて運動会が開かれました。加藤校長先生が紅白の玉が入った箱を肩に担いで15号の沢をよじ登って川沿小学校に返しに行かれたのを思い出します。

学校の井戸は、臼井万作さんたちの指揮で深い井戸を掘ったけれど水が出ず、毎日、横畠さんの沢の中の井戸からバケツで水汲みをしましたが、ズボンや靴の中に水がかかって大変でした。（略）

＊注：学校敷地

昭和23年１月、村議会で開拓学校設置が決定。昭和24年１月、佐藤君衛所有の西４線15号づき北３町歩が校地として寄付され、その代替地として西４線15号づき南２町５反歩が交換され、現在地（富丘287番地）が校地として決定。

＊注：校舎

校舎建設は部落請け負いとなり、学校建築準備委員会を結成。建築資材の調達は北見営林署から官林の払い下げを受けることになり、イワケシ山麓の国有林から部落全員の出役で切り出し・搬出。公民館の草原で移動機を使用して製材。

屋舎建設は佐藤君衛・伊藤政治が請負人となり、部落民の協力を得て昭和24年５月工事着手、８月23日上棟式、25年４月１日落成式・開校式。

教室３（60坪）　児童玄関（４坪）　職員室（６坪）　便所（７坪）
廊下（15坪）　合計92坪
物置（６坪）　水飲み場（５坪）　井戸小屋（３坪）　風呂小屋（３坪）
教員住宅　校長住宅１棟１戸　教員住宅１棟３戸

＊注：児童生徒

小学校		
	１年生入学児童	15人
	川沿小から転入	57人
	下佐呂間小から転入	18人
	合　計	90人

中学校		
	１年生入学生徒	12人
	川沿中から転入	16人
	下佐呂間中から転入	３人
	合　計	31人

＊注：教員

４月１日開校時の教員体制は校長のみ発令。10月までに新任４人の教員確保。

その間は、川沿小中学校・常呂小学校・錦水小学校教諭の出張授業。

＊グランド整備・運動会

昭和25年４月25日　学校敷地に火入れ

４月27～29日　校下父兄出動して学校周囲・グランド整地

５月11日　富丘青年団の校地美化作業

５月27～29　校下父兄出動してグランド地均し

６月26日　富丘小中学校第１回運動会開催

＊注：水問題

開校以来、学校生活で一番頭を悩ましていたのが水の問題であった。開校直後から井戸を掘り、その深さは30メートルにも及んだが、底にたまるのは30センチほどの赤茶けた水で、到底飲用にできるものではなかった。そのため、飲料水は現公民館前の沢の湧水を利用するしかなかったのである。児童生徒は当番を決め、急坂を上り下りしてバケツややかんを持っての水運びが毎日の日課になった。父兄の中にも天秤を担いで水汲みを手伝う者もいた。

町当局も水の問題を解決するため、イワケシュ山から水道を引くことを決め、部落請負で水道工事が始まった。農作業が一段落した11月８日に始まった水道工事は、部落の全員が出役するなかで12月22日落成、同日関係者が集まって通水式が行われた。蛇口をひねるととうとうと飛び跳ねる水量に、児童は思わず万歳を叫んだという。水量も豊富で、当時計量では１分間に８升バケツで10数杯分もあった。しかし、浄水装置がまだ不十分だったため木の葉が流れ込んで管をふさぎ、時々掃除をしたり管を掘り起こしたりという作業が付随していたが、沢からの水汲みかたみれば作業も苦ではなかった。

＊注：『富丘小学校開校30周年記念誌』収録「過去を語る座談会」から抜粋・編集

（略）

堀田：富丘の学校は今から30年前にできた。学校が建つ前は、白樺林やカシワナラの生い茂る笹やぶで、木を切ったり笹を焼いたりして校舎を建てた。当時の校舎は今の体育館からバックネットの方に向かって建っていた。その校舎も部落の人たちの血の出るような努力と奉仕で建った。牧場の奥の国有林の木を払い下げてもらい、公民館の所で移動機で製材して学校を建てた。しかし、今のような立派な学校ではなかった。

掃除の時にも水がなく、体育館の横に井戸を60尺（18メートル）も掘ったが水が湧かない。ある日、井戸に下りてみると下の方に１尺くらいの汚い水しかない。上を見ると昼間でも空の星が光って見える。

どうにもならないので役場に頼んでイワケシュ山から水を引くことにした。部落の人がみんな出て、毎日毎日管をつないでようやく水を引くことができた。きれいな水が出た時の喜びは本当に忘れない。（略）

＊注：『富丘小学校開校30周年記念誌』収録「思い出を語る同窓生」から抜粋・編集

（略）

校長：平岡さん、結城さん、林田さんらは開校の時中学生だったわけですが、その頃の学校のようすはどうでしたか。

結城：昭和25年４月１日開校になり、それまで浜佐呂間と川沿に通っていた者が入学することになり、私は川沿から中学２年の時来ました。

当時の校舎はバラック建てで会館よりひどかったということを覚えています。校舎というより分教場といった方が良かった。教室は３つでした。

平岡：中学は１教室で１年から３年の複々式でした。

結城：先生も初めは加藤校長先生と奥さんだけで、持永、新田先生は後から来られたように思います。新田先生が来られた時、川沿のバス停留所まで全校で迎えに行った記憶があるし、15号道路が徒歩でも大変な悪路でした。（略）

森沢：最初の頃は掃除も大変だった。１教室に生徒が多かったから机も下げられなかったぐらいです。

向井：体育館もないし、グランドも荒れ地なので、公民館の所の草原でよく遊んだ。

安原：そこに移動機を置いて学校の建材を製材したようだが、学校の床なんか板の厚さがまちまちで、１寸のがあったり８分があったりでガタガタしていたもんだ。（笑）

結城：グランドも父兄の方が手をかけてたが、大変なようでしたね。

安原：グランドならしの時、プラウが浮き上がるので結城さんらがプラウの上に乗って押さえつけていたね。（略）

森沢：吹雪の後の校舎の雪出しもよくやったね。朝登校すると廊下に雪が山ほどあって教室まで行けなかった。（略）

平岡：水にはずいぶん苦労した思い出があるね。

結城：沢から当番制で汲んできた覚えがあるね。

向井：校長住宅の横に、後から井戸ができたが赤い水で全然飲めなかった。掃除水くらいは使ったが。

結城：あの頃一番困ったのは水だったな。

平岡：上級生は横畠さんの所から下りて、沢の水汲みが日課でした。今でもその井戸が残っています。

結城：本当に昔の状態は、まさに陸の孤島とでもいえるくらいだった。冬は道を踏み固めてようやく上り下りしたもんです。

向井：カンジキで沢の中に下りていった。横畠さんの横も崖なので斜めに下りて行きました。

林田：中３の時にイワケシュの水道が引かれて喜んだね。

向井：イワケシュの水道が完全ではないので、木の葉などで詰まることがある。水が止まるので水源地まで見に行ったことがあります。

金森：雨が降ると水道が濁るので、飲み水はヤカンを持って沢に汲みに行ったことがあるよ。（略）

＊注：『富丘小学校開校30周年記念誌』収録「昔を語る」から抜粋・編集

（略）

森沢：いよいよ学校を建てることになったが、部落の請け負いということで建築委員会を決めて取りかかったんです。委員長に横山清七さん、委員に三好さん、新木さん、松本さん、臼井さんらがなり、堀田さんが会計だったね。

学校を建てるといっても部落請負の形で、愛林組合長だった三好さんや臼井らが北見営林署へ材の払い下げの陳情に行った。行く時にドブロクを持って行ったのが効いたのかもしれないね。当時は奉仕の時代で、役場から補助をもらって部落が奉仕しようということで、出役で出た人は酒やドブロクやイモやトウキビがあたる程度で、金の面では無報酬だった。

安原：営林署から払い下げになった材は、イワケシの水源地の沢の奥の鉱山の下から運び出した。私は伊藤政治さんと菊地金五郎さんと3人で運搬を請け負って搬出したが難儀しました。沢に下りると馬が引っ張れないので、沢をよけて遠回りし、ここまで運び出すのに大変だった。

新木さんの上からも切り出したね。そして今の公民館の場所で松木重明さんが移動機で製材したんです。

土田：この公民館建築の時、私は穴に埋まってそこを掘ったらおがくずが出てきたわい。（笑）

森沢：伊藤政治さんと佐藤君衛さんが委員になっており、2人が主体になっていよいよ建築にあたった。ところが地均しが大変で、道路もないし笹の根をはらい、もっこで土を運ぶなど本当に大事業でした。

安原：地均しだって平均になんてできなかった。重粘土で固くて、それでバックネット側なんかおとなの背ほどもの地杭を使って床をくぐって歩けるほどでしたよ。（略）

安原：新しい学校といっても教具も設備も何もないんだ。（略）学校は建物が建ったというだけの学校で、オルガンもお寺の借り物だったからなあ。

森沢：（略）加藤校長も3日前の発令とかで何も用意できず、1人で来て家に1週間ほど泊まったんです。

安原：ストーブだって無くて、火鉢に炭をおこして暖をとらせるくらいだから子どもらも寒かったろう。窓を開けたら窓から笹がガサガサと入ってきたもんだ。

森沢：3年生くらいまでは火鉢にあたらせ、高学年はそっちへ行って遊んでいれという具合だった。

開校当時は先生もいなくて、常呂、川沿、錦水からも先生が応援に来てくれた。私も小使い代わりに1週間ほど通いました。

安原：開校式の時、校舎の周りにカンナくずがいっぱい散らかり笹もあるので、学校としての格好も悪いからと一応バケツに水を用意して、用心しながら火をつけた。加藤校長が心配して学校が焼けないかと不安げだったことを覚えています。そして清掃してお客さんを迎えたんです。

道がなかったので子どもが歩けるだけの道を造った。だからさっきも話に出たように、雨の日はどろどろになって親も子も大変苦労したんだ。

それから大変だったのは水の問題だったね。水が無くて、子どもたちが石沢さんの沢からバケツやヤカンに入れて水運びをしたんです。（略）

安原：私も生徒と一緒に天秤で水を運んだ記憶があります。その頃の生徒だから何も文句言わないでよく運んだもんだ。
校長：それで井戸を掘ることにしたんですね。堀田さんが下りたという井戸はどこにあったんですか。
堀田：今の教頭住宅の前にあったんです。
安原：あれは百尺以上も掘ったね。
森沢：井戸掘りをしたのは臼井万作、東政一、橋本勇さんなどだったね。
堀田：なんぼ掘っても水が出ず、下に下りると1尺ほどしか水がたまっていない。しかも真っ赤な水で全然使い物にならに。
安原：佐野さんが牧場で使ってた二重ポンプを持ってきて汲み上げたが赤い水だった。
森沢：それでイワケシから鉄管で水を引くことにしたわけだ。あれは何年だったかな。
校長：昭和27年に水道を引いています。
森沢：横山さんが区長で、最初は鉄管だったが10年ほどで錆びたので37年に管を替えたんです。（略）
校長：（略）グランド整備でもだいぶ泣かされたようですね。
森沢：全部部落の奉仕で、会長だった私は校長さんと半日くらいかかって打合せをし、あと半日くらいかかって役員会をやる。そして3班くらいに分けてやる段取りをしたんです。
当時のグランドは高低の差がひどく、波を打っているようで、運動会の遊戯では足が見えないくらいだった。
安原：グランドの整備はもう大変なもんで、春秋と毎年毎年繰り返された。重粘土のひどい土なので、プラウも歯がたたない。深耕プラウで3頭曳きで地均ししたこともあったね。何せプラウが浮き上がってしまうんだから。
堀田：馬が使えないので、もっぱらモッコ担ぎをしたもんだ。
校長：ＰＴＡの記録によりますと25年、26年と3日続けて2度、3度とグランド地均しという記事があります。
安原：子どもが自由に走ったり野球をしたりできるまでには、ずいぶんと年数と苦労があったんです。（略）